AMDA帰国会見ジャワ島 地震 回復が急務

災者救援に派遣されてい た国際医療ボランティア AMDA(本部·岡山市 ジャワ島中部地震の被 中。 テント生活を強いられ 家屋が全半壊し、 周辺の村は大半の

見した。 一四日、同市内で記者会 は、 る人がほとんど。医師ら 療が受けられないことを

急患優先で通常の診

の医師らが帰国し

地区はジョクジャカルーシステムが崩壊してい 活動地のプランバナン

指摘し「医療・健康管理

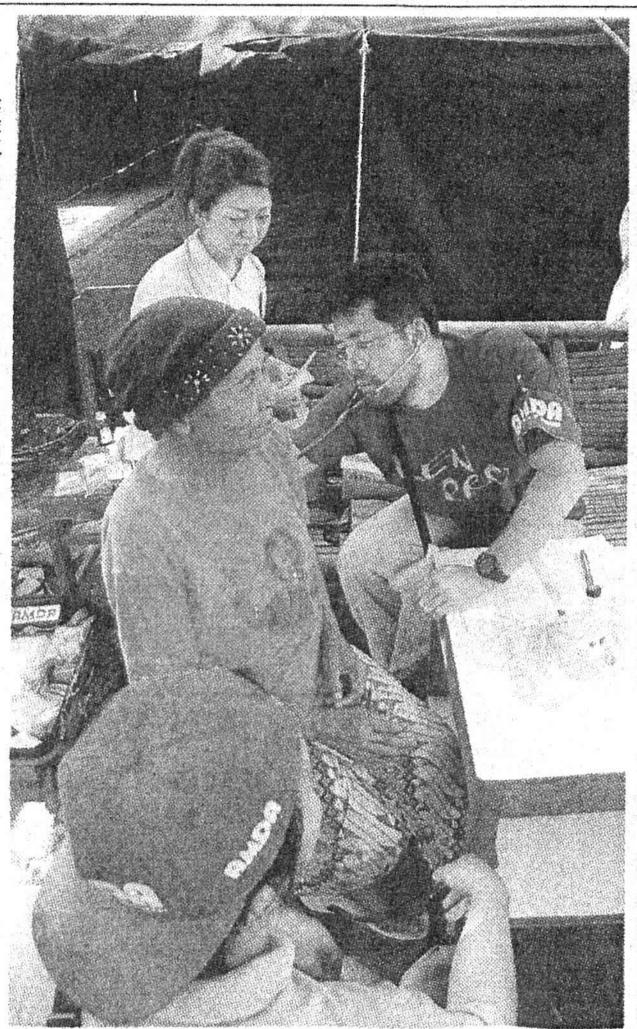
夕市から北東約三十五一る。その回復が急務」 語った。

さん(回の)、 越谷市の医師細村幹夫 帰国したのは、埼玉県 北海道室蘭

防接種など 約二週間、 生から四日後の五月三 十一日に現地入りし、 さん(三も)ら四人。地震発 市の看護師、 巡回診療や予 の活動に当た **峯岸亜紀子**

しずつ落ち着きを取り戻 の状態だっ った。 当初は、 ぼうぜん自失 た被災者も少

一など、取り残された患者 一め病院でみてもらえない る子どもの食欲不振や、 という。細村さんらは「緊 してきた。しかし、地震 との関連が強いとみられ 急救援のヤマ場は超えた一



診療活動する細村医師と峯岸看護師(左奥) ―9日、インドネシア・チ ュチュアン村で斎藤章一朗撮影

> 要性を訴えた。 がいる」と支援継続の必

が、依然、重傷でないた一するプログラムなど、現 |訴える人は増加している |を派遣。 六月下旬まで巡 頭痛、体のだるさなどを一人八人を含む計四十一人 一は精神的な後遺症を支援 を検討している。 地ニーズに合わせた活動 回診療を継続し、その後 AMDAは今回、日本 (斎藤章一朗)